

2. 女族か男族かの生まれ方

受胎された「自我」には、女か男かの区別もついていました。その中間の性はなく、必ず女か男かなのです。その決定は、受胎された時の男性の心の中に原因がありました。

男性が、自分の子どもを欲しいと願う時は男の命の元が強くなり、男子が受胎される。性行為を目的とした場合は、女の命の元が強くなり女子が受胎される。宇宙の意志が女子を誕生させ、親の自覚が男子を誕生させました。

いずれにしても、受胎されたということは、本人の生まれたい強い欲があった。生まれてくる赤ちゃん自身が、生まれてきたかったからなのです。赤ちゃんの姿からは、そんな強い意志は感じられないかもしれませんが、辿ってきた道のりを考えれば、わかることです。生まれたい強い欲、自我を持った命の元だけが、生命体になったのです。